

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 1F希		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和5年9月16日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0192500064-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 「日本で最も美しい村」連合のひとつである赤井川村にあり、四季折々の風景と自然豊かな環境の中で暮らしながら、地域の方々と交流を深めながら、共に支え合う関係になりました。
- コロナ禍で施設の行事や地域との交流を自粛しなければならない現状の中でも、村の文化祭には、利用者様が作った作品を出品させて頂き、できる範囲での地域交流活動をしています。
- 外出も自粛している中でも、さくらんぼ狩りやブルーベリー狩りなどの季節に合わせた行事を計画したり、季節の素材を取り入れた行事食を召し上がっている。前庭にテントを設置して、涼しい時間帯や日を選び、外へ出て体操したり、歌を歌うなど、気分転換をする機会を実施しています。
- 村内を流れる川岸の清掃に参加しながら、地域の一人としての交流をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな丘陵が周囲を囲む赤井川村の中心付近にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物内は明るく清潔で、居間の大きな窓からの風景を楽しむことができる。感染症の流行により現在は利用者が地域の行事などに参加できていないが、以前は地域との交流が活発で、村の様々な行事に参加し、事業所の夏祭りに多数の住民の参加を得ていた。現在も運営推進会議には役場や町内会関係者、消防署、社会福祉協議会など多様な村内関係者の参加を得ている。運営面では毎月ミーティングや勉強会を行い、マニュアルや会議録、研修資料などを見やすく整理している。家族への情報提供の面では、3か月毎の家族宛のお便りに事業所全体のページと個人のページを作り、利用者の様子を詳しく伝えている。医療支援の面では、希望に応じた通院支援を行うとともに、受診時の医師への情報提供や受診内容を詳しく記した「受診説明記録」を作成し、職員間で共有している。食事は食材提供会社のメニューを基本に、独自に曜日によって丼ぶりや麺類、パンの日を設定して楽しめるようにしている。外出が難しい中でも計画的に行事を設定し、室内や庭先でのレクリエーション、近隣の果物狩りなどを行っている。居心地のよい空間と豊かな自然環境のもと、快適に過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「おたがいさま」を常に意識しながら、実践ができるようにリビングや休憩室に掲示をしています。	介護スタッフの理念の中に「地域に根ざしたホームを目指します」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念を事務所やユニット入り口に掲示し、月1回のミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の感染状況などの現状を確認しながら、地域との交流を自粛したり、行事の開催を中止している状況となっているが、区会の道路清掃や村の文化祭に作品を出品するなど、可能な範囲での交流を行っています。	感染症対策のため、村の夏祭りや交流会に利用者が参加することはできていないが、村の文化祭に利用者の作品を見に行ったり、通院等で知人に会った際に挨拶を交わしている。感染症が落ち着いたら行事等の参加を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	構成メンバーに地域の代表の方々がいる運営推進会議の中で、認知症についての研修し、理解を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの近況報告をし、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況や予防について、情報交換やご意見を頂き、取り入れています。また、年間の研修計画を立て、テーマに沿って研修を行っています。	会議を2か月毎に開催し、役場職員、町内会長、住民、消防署、社協、家族の参加を得ている。身体拘束や感染症などをテーマに意見交換し、議事録を家族に送付している。参加できない家族の意見をさらに得ていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症拡大により、夏祭りなどの施設行事の中止により、参加や協力ができていない現状ですが、運営推進会議に担当課長が出席されているため、取り組みや実情についてご理解を頂きながら、できる範囲での協力をお願いしています。	運営推進会議に役場や消防署の参加を得て情報提供を受けている。利用者がマイナンバーカードを作成する際の手続きにも役場職員が来訪している。何かあればいつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていません。身体拘束禁止を意識できるように休憩室などに身体拘束の禁止項目を掲示しています。また、3か月ごとに身体拘束適正化のための指針について、確認と研修を行っています。	身体拘束を行っておらず、3か月毎に身体拘束禁止委員会と勉強会を行っている。勉強会では11項目の禁止行為も確認している。利用者が不穏な際に一時的に玄関の鍵を掛けることもあるが通常は施錠せず、利用者の出入りを見守りで把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、3か月ごとに虐待防止対策・身体拘束禁止委員会を開催し、虐待に繋がる不適切なケアが、自分たちの介護の中にあるのかを検証し、ミーティングや研修で改善策などを協議しながら、虐待防止に務めてきました。今後は虐待防止のための指針に基づいて、研修を行っていきます。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少子化に伴い、今後、成年後見人が必要となると思いますので、研修等に参加しなら、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書や契約書を詳しく説明をしながら、理解と納得をして頂けるように努めており、解約の際は、利用者様やご家族に十分な説明をして、不安のないように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者様とのコミュニケーションの中で、信頼関係を築き、要望や不安に思う事を引き出せるように努め、ご家族にその思いを伝え、意見や要望を聞きながら、運営に反映させています。	家族に電話をした際や来訪時に意見を聞き、得られた意見を連絡ノートで共有している。家族の要望にできる範囲で対応している。3か月毎のお便りでは事業所全体のページと個人のページを作り、様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや社内研修、カンファレンスなどで、話し合った意見や提案を反映できるように努め、また、個別に面談も行うことで、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、連絡帳も活用しています。	月1回のミーティングやカンファレンスで職員が活発に意見交換している。年2回の個人面談の場を設け、職員が管理者や統括本部長に意見を伝えられるようにしている。職員は行事や健康管理、虐待防止などの委員となり運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績と自己評価を踏まえ、個別面談の機会を設け、評価をしています、勤務時間などについても本人の要望に添えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のために外部の研修への参加を自粛していましたが、現在の感染状況や感染防止の対策をしながら、参加の機会を増やしています。また、オンラインでの研修も活用しており、参加した内容については、社内研修で報告し、他の職員とも共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、同業者との研修会なども自粛されており、交流機会がありませんが、今後、グループホーム協議会での研修会や意見交換会も開催されれば、参加したいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安なく、安心して生活ができるようにコミュニケーションを図りながら、情報収取をすることで、信頼できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様に関して、ご家族への連絡時、相談や要望などされた場合は、いつでも対応ができるようにしています。管理者が不在の場合においても職員が対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と事前に面談し、介護計画書に反映できる情報や要望を集約し、作成しています。また、必要としている支援については、都度検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりとの会話やレクリエーションの中から、得意な事やできることを見つけ、一緒に作業をしたり、時には、教えて頂きながら、生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、意見や要望を踏まえ、ご本人が安心して生活ができるように協力をしていく体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出や面会などを自粛しなければならない状況にありましたが、感染予防対策をしながら、ご家族に協力を頂き、お墓参りなど住み慣れた地域への外出を可能な限り行っています。通院などで、住み慣れた地域に行ける方には、町の風景などを楽しんで頂けるに支援しています。	1～2名の利用者に友人や知人が来訪している。知人から利用者に電話が来た際は取り次いでいる。顔馴染みの美容師が訪問美容に来訪しており、地域の利用者の知り合いが仕事で事業所を訪れることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合えるように、スタッフと一緒に会話したり、塗り絵をしたりしながら、孤立せずに暮らすことができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今での関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援ができよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランを作成時は、ご本人やご家族の要望や意向を基に作成するように努めており、困難な場合は、生活の中や今までの生活歴などを基に意向を汲み取り、作成に努めています。	半分ほどの利用者は思いや意向を表出でき、難しい場合も表情や仕草から把握している。アセスメントシートに生活歴を詳しく記載しているが、「暮らしの情報」欄の趣味や嗜好の記載は少ない。	アセスメントシートの「暮らしの情報」欄を活用し、趣味や嗜好などの情報を充実させることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院から情報を頂き、ご本人やご家族とも面談し、フェイスシートに反映し、把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、個々の過ごしたかを介護日誌やバイタル表に記録することで把握し、大きな変化などがある場合は、連絡ノートを活用し、職員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンス、健康管理委員会を開催し、ご本人やご家族の要望、困りごと、主治医やスタッフの意見も考慮しています。また、現状把握や課題解決には、介護日誌や連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしています。ミーティングや社内研修においても話し合いをして、状況の把握をしています。	介護計画は6か月毎の更新を基本としているが、3か月毎のサービス担当者会議で更新が必要となった場合はその都度更新している。日々の記録である「支援経過」作成の際に、該当するサービスの目標番号と実践や気づきを記載している。今後、各職員が利用者の介護目標をさらに意識できるよう徹底する意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては、介護日誌に記録し、管理者やケアマネ、スタッフが連絡ノートにも記載をすることで、情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、自粛や中止になっていますが、施設の夏祭りや温泉で利用し開催していた、ご家族交流会を開催していました。今後、感染状況の把握と感染対策をしながらの再開を検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止により、参加の自粛をしていますが、村の行事や社会福祉協議会の行事に参加し、楽しんで頂けるように支援してきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけであった病院へ継続して通院ができるよう支援していますが、遠方で難しい場合には、事業所の協力医療機関とも相談しながら、継続した医療を受けられるように配慮しています。また、受診の際には、受診説明書作成し、状況の変化やバイタルなどを記載し提示しています。	各利用者が月1回、主に協力医療機関に通院している。概ね事業所が通院を支援し、遠方の受診には家族の協力を得ている。「受診説明記録」に最近の健康状態や受診内容を詳しく記載している。	

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、スタッフからの報告により情報を共有し、定期的に利用者様と関わりながら、相談を受けたり、生活リハビリを行ったりしています。受診の際には、受診説明書に主治医の指示を記録し、連絡ノートにも記載することで、適切な報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時には、ご家族や医師、看護師と連絡をとったり、オンラインでの面会が可能場合は、活用しながら、状況の把握をして、早期退院に向けた働きかけをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に医療連携に関する指針を説明し、同意を得ている。重度化した利用者様のご家族とは、密に連絡を取り合い、日常生活の様子を具体的に説明し、重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。	利用開始時に「看取りの体制と実施方針」を説明し、同意の上契約書を取り交わしている。医療行為が必要な場合などは事業所での看取りは難しく、医療機関に移る旨を家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、消防署の協力のもと、通報訓練や合同避難訓練避難訓練を行い、助言を頂いています。地域の方には、日頃から協力をして頂けるよう相談している。	消防署の指導を得て夜間想定や地震想定も含めた避難訓練を年2～3回実施している。職員の救急救命訓練や、災害備蓄品の整備も計画的に行っている。入浴時の地震など、ケア場面別の対応についても再確認する方針である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや社内研修において、「職員倫理規程」に基づく行動指針の読み合わせし確認しています。また、新しい職員が入った際にもオリエンテーションで確認し、人格の尊重やプライバシーの保護を徹底するように統一しています。	利用者を「さん」付けで呼びかけている。勉強会で認知症ケアのコミュニケーション方法などを学んでいる。気になる言葉かけがあればその都度指導し、申し送りは部屋番号で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳が遠い方や意思表示などが困難な方には、筆談や表情をみながら、コミュニケーションをとり、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重しながら支援しています。意思表示ができない方には、トイレ誘導なども一人ひとりのサイクルを確認しながら、無理強いすることなく、生活ができるように工夫をしながら、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みの服を選んだりできる方には、要望があれば、通販などを活用しながら、購入したり、職員が代わりに購入するなどの支援をしています。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好み物などを聞き取り、ご本人のお誕生日などに行事食として食べて頂いたり、季節の果物をおやつに提供するなど、食べる楽しみが持てるようにしています。また、可能な利用者様には、テーブルを拭いて頂くなど、一緒に後片付けを行っています。	業者の献立を基本に、週3回、丼物や麺類、パンの日を設けている。年間行事に合わせて年越しそばやおせち料理、恵方巻などを取り入れている。家族から差し入れを受けた野菜や果物が食卓に上ることある。収穫祭で焼き肉などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は、毎日記録し、把握し体調に配慮しています。食べる量や栄養バランスに不安がある場合は、主治医に相談しながら、対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔保清を行って頂き、舌の汚れなども確認しながら、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記録、確認しながら、できるだけトイレで気持ちよく排泄ができるように声をかけたり、二人介助で誘導するなど、支援し、できるだけ失禁のないように取り組んでいます。	全員の排泄状況を「水分量・トイレ回数」に記録している。身体状況に応じてベッドで排泄用品を交換することもあるが、ほとんどの利用者は昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。誘導の声かけは耳元で小声で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を確認しています。便秘予防に毎朝、食事にヨーグルトをつけたり、体操後に牛乳を飲んで頂くなどの工夫をしています。また、病院へ相談し、薬を処方して頂き、調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ、ご本人の意思を尊重しながら、気持ち良く入浴して頂けるように支援しています。また、馴染みの会話したり、ご本人からの要望などを聞きながら、楽しく入浴ができるように心がけています。	毎日入浴が可能で、午後の時間帯を中心に一人当たり週2回の入浴を支援している。身体状況に応じてシャワー浴で対応することもある。湯加減や同性介助などの希望に沿って入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣などの配慮しながら、穏やかな気持ちで安眠ができるような関わりを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬を把握できるように、受診説明書が閲覧できるようにしており、服薬についてもマニュアルに従い、事故のないように努めています。粉剤や錠剤の服用が難しい方には、トロミ調整剤を使用するなどの対応もしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、自分でできることは限られていますが、テーブルを拭いたり、洗濯物を畳んだりできることを確認しながら、行って頂いています。また、行事やレクリエーションの中にも個々にあったゲームなどを取り入れ、楽しんで頂いています。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染状況や感染対策をしながら、ご家族とも相談しながら、お寺参りやお墓参りなど、できる限り希望に添えるように支援しています。	普段は敷地内や周辺を散歩している。庭先のブルベリーを収穫することもある。地域の文化祭を見に行ったり、サクラボ狩りで余市に出かけている。月1回通院する利用者が多いため、年間を通して外出する機会が設けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談しながら、利用者様の希望などに応じて、対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば、ご家族への電話連絡やお手紙やハガキ、切手の購入の支援を行っています。面会ブースを設置し、感染対策をしながら、面会を再開しており、面会ができないご家族には、オンライン面会の対応をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁や玄関に四季折々の壁掛けや置物を置いたり、リビングには、文化祭に出品した作品や季節を感じて頂けるようなディスプレイを工夫しています。また、懐メロのCDを流し、一緒に歌ったりできるような工夫もしています。	居間と食堂は大きな窓に面した明るく開放感のある造りで、窓から望む雄大な景色から四季の移り変わりを感じることができる。廊下や居間の壁には、利用者の絵や文化祭に出展した大きな作品が飾られている。家庭的な調度品も多く、落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも思い思いに過ごせるように配慮し、ソファや椅子を設置し、一人になって外をみられるような空間や思い思いに過ごせる居場所の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂くなど、利用者様が安心して、穏やかに生活できる居室、その方らしい居室になるように支援しています。各居室には、のれんを設置し、プライバシーへの配慮しながら、風通しを良くしたり、温度・湿度計を設置して乾燥対策にも配慮しています。	居室にはクローゼットとベッド、カーテンや暖簾が備え付けられている。仏壇や使い慣れた収納棚を持って来ている利用者もいる。壁には、本人の塗り絵作品や事業所からの表彰状などが貼られている。ぬいぐるみなどを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をかけ、わからない方には、目印となる写真やお花、ぬいぐるみをつけています。また、お手洗いの場所もわかりやすい様に掲示したり、目印をつけるなどの対応をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 2F夢		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和5年9月16日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JirvosvoCd=0192500064-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○「日本で最も美しい村」連合のひとつである赤井川村にあり、四季折々の風景と自然豊かな環境の中で暮らしながら、地域の方々と交流を深めながら、共に支え合う関係になりました。</p> <p>○コロナ禍で施設の行事や地域との交流を自粛しなければならない現状の中でも、村の文化祭には、利用者様が作った作品を出品させて頂き、できる範囲での地域交流活動をしています。</p> <p>○外出も自粛している中でも、さくらんぼ狩りやブルーベリー狩りなどの季節に合わせた行事を計画したり、季節の素材を取り入れた行事食を召し上がっている。前庭にテントを設置して、涼しい時間帯や日を選び、外へ出て体操したり、歌を歌うなど、気分転換をする機会を実施しています。</p> <p>○村内を流れる川岸の清掃に参加しながら、地域の一人としての交流をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty space for external evaluation comments
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「おたがいさま」を常に意識しながら、実践ができるようにリビングや休憩室に掲示をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の感染状況などの現状を確認しながら、地域との交流を自粛したり、行事の開催を中止している状況となっているが、区会の道路清掃や村の文化祭に作品を出品するなど、可能な範囲での交流を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	構成メンバーに地域の代表の方々がいる運営推進会議の中で、認知症についての研修し、理解を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの近況報告をし、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況や予防について、情報交換やご意見を頂き、取り入れています。また、年間の研修計画を立て、テーマに沿って研修を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症拡大により、夏祭りなどの施設行事の中止により、参加や協力ができていない現状ですが、運営推進会議に担当課長が出席されているため、取り組みや実情についてご理解を頂きながら、できる範囲での協力をお願いしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていません。身体拘束禁止を意識できるように休憩室などに身体拘束の禁止項目を掲示しています。また、3か月ごとに身体拘束適正化のための指針について、確認と研修を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、3か月ごとに虐待防止対策・身体拘束禁止委員会を開催し、虐待に繋がる不適切なケアが、自分たちの介護の中にあるのかを検証し、ミーティングや研修で改善策などを協議しながら、虐待防止に務めてきました。今後は虐待防止のための指針に基づいて、研修を行っていきます。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少子化に伴い、今後、成年後見人が必要となると思いますので、研修等に参加しなら、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書や契約書を詳しく説明をしながら、理解と納得をして頂けるように努めており、解約の際は、利用者様やご家族に十分な説明をして、不安のないように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者様とのコミュニケーションの中で、信頼関係を築き、要望や不安に思う事を引き出せるように努め、ご家族にその思いを伝え、意見や要望を聞きながら、運営に反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや社内研修、カンファレンスなどで、話し合った意見や提案を反映できるように努め、また、個別に面談も行うことで、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。また、連絡帳も活用しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績と自己評価を踏まえ、個別面談の機会を設け、評価をしています、勤務時間などについても本人の要望に添えるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のために外部の研修への参加を自粛していましたが、現在の感染状況や感染防止の対策をしながら、参加の機会を増やしています。また、オンラインでの研修も活用しており、参加した内容については、社内研修で報告し、他の職員とも共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、同業者との研修会なども自粛されており、交流機会がありませんが、今後、グループホーム協議会での研修会や意見交換会も開催されれば、参加したいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安なく、安心して生活ができるようにコミュニケーションを図りながら、情報収取をすることで、信頼できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様に関して、ご家族への連絡時、相談や要望などされた場合は、いつでも対応ができるようにしています。管理者が不在の場合においても職員が対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と事前に面談し、介護計画書に反映できる情報や要望を集約し、作成しています。また、必要としている支援については、都度検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりとの会話やレクリエーションの中から、得意な事やできることを見つけ、一緒に作業をしたり、時には、教えて頂きながら、生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、意見や要望を踏まえ、ご本人が安心して生活ができるように協力をしていく体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出や面会などを自粛しなければならない状況にありましたが、感染予防対策をしながら、ご家族に協力を頂き、お墓参りなど住み慣れた地域への外出を可能な限り行っています。通院などで、住み慣れた地域に行ける方には、町の風景などを楽しんで頂けるに支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合えるように、スタッフも一緒に会話したり、塗り絵をしたりしながら、孤立せずに暮らすことができよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今での関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランを作成時は、ご本人やご家族の要望や意向を基に作成するように努めており、困難な場合は、生活の中や今までの生活歴などを基に意向を汲み取り、作成に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院から情報を頂き、ご本人やご家族とも面談し、フェイスシートに反映し、把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、個々の過ごしたかを介護日誌やバイタル表に記録することで把握し、大きな変化などがある場合は、連絡ノートを活用し、職員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンス、健康管理委員会を開催し、ご本人やご家族の要望、困りごと、主治医やスタッフの意見も考慮しています。また、現状把握や課題解決には、介護日誌や連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしています。ミーティングや社内研修においても話し合いをして、状況の把握をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては、介護日誌に記録し、管理者やケアマネ、スタッフが連絡ノートにも記載をすることで、情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、自粛や中止になっていますが、施設の夏祭りや温泉で利用し開催していた、ご家族交流会を開催していました。今後、感染状況の把握と感染対策をしながらの再開を検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止により、参加の自粛をしていますが、村の行事や社会福祉協議会の行事に参加し、楽しんで頂けるように支援してきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけであった病院へ継続して通院ができるよう支援していますが、遠方で難しい場合には、事業所の協力医療機関とも相談しながら、継続した医療を受けられるように配慮しています。また、受診の際には、受診説明書作成し、状況の変化やバイタルなどを記載し提示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、スタッフからの報告により情報を共有し、定期的に利用者様と関わりながら、相談を受けたり、生活リハビリを行ったりしています。受診の際には、受診説明書に主治医の指示を記録し、連絡ノートにも記載することで、適切な報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時には、ご家族や医師、看護師と連絡をとったり、オンラインでの面会が可能場合は、活用しながら、状況の把握をして、早期退院に向けた働きかけをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に医療連携に関する指針を説明し、同意を得ている。重度化した利用者様のご家族とは、密に連絡を取り合い、日常生活の様子を具体的に説明し、重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、対応できようとしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、消防署の協力のもと、通報訓練や合同避難訓練避難訓練を行い、助言を頂いています。地域の方には、日頃から協力をして頂けるよう相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや社内研修において、「職員倫理規程」に基づく行動指針の読み合わせし確認しています。また、新しい職員が入った際にもオリエンテーションで確認し、人格の尊重やプライバシーの保護を徹底するように統一しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳が遠い方や意思表示などが困難な方には、筆談や表情をみながら、コミュニケーションをとり、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重しながら支援しています。意思表示ができない方には、トイレ誘導なども一人ひとりのサイクルを確認しながら、無理強いすることなく、生活ができるように工夫をしながら、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みの服を選んだりできる方には、要望があれば、通販などを活用しながら、購入したり、職員が代わりに購入するなどの支援をしています。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好み物などを聞き取り、ご本人のお誕生日などに行事食として食べて頂いたり、季節の果物をおやつに提供するなど、食べる楽しみが持てるようにしています。また、可能な利用者様には、テーブルを拭いて頂くなど、一緒に後片付けを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は、毎日記録し、把握し体調に配慮しています。食べる量や栄養バランスに不安がある場合は、主治医に相談しながら、対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔保清を行って頂き、舌の汚れなども確認しながら、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記録、確認しながら、できるだけトイレで気持ちよく排泄ができるように声をかけたり、二人介助で誘導するなど、支援し、できるだけ失禁のないように取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便間隔を確認しています。便秘予防に毎朝、食事にヨーグルトをつけたり、体操後に牛乳を飲んで頂くなどの工夫をしています。また、病院へ相談し、薬を処方して頂き、調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ、ご本人の意思を尊重しながら、気持ち良く入浴して頂けるように支援しています。また、馴染みの会話したり、ご本人からの要望などを聞きながら、楽しく入浴ができるように心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣などの配慮しながら、穏やかな気持ちで安眠ができるような関わりを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬を把握できるように、受診説明書が閲覧できるようにしており、服薬についてもマニュアルに従い、事故のないように努めています。粉剤や錠剤の服用が難しい方には、トロミ調整剤を使用するなどの対応もしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、自分でできることは限られていますが、テーブルを拭いたり、洗濯物を置んだりできることを確認しながら、行って頂いています。また、行事やレクリエーションの中にも個々にあったゲームなどを取り入れ、楽しんで頂いています。		

グループホームあまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染状況や感染対策をしながら、ご家族とも相談しながら、お寺参りやお墓参りなど、できる限り希望に添えるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談しながら、利用者様の希望などに応じて、対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば、ご家族への電話連絡やお手紙やハガキ、切手の購入の支援を行っています。面会ブースを設置し、感染対策をしながら、面会を再開しており、面会ができないご家族には、オンライン面会の対応をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁や玄関に四季折々の壁掛けや置物を置いたり、リビングには、文化祭に出品した作品や季節を感じて頂けるようなディスプレイを工夫しています。また、懐メロのCDを流し、一緒に歌ったりできるような工夫もしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも思い思いに過ごせるように配慮し、ソファや椅子を設置し、一人になって外をみられるような空間や思い思いに過ごせる居場所の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂くなど、利用者様が安心して、穏やかに生活できる居室、その方らしい居室になるように支援しています。各居室には、のれんを設置し、プライバシーへの配慮しながら、風通しを良くしたり、温度・湿度計を設置して乾燥対策にも配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をかけ、わからない方には、目印となる写真やお花、ぬいぐるみをつけています。また、お手洗いの場所もわかりやすい様に掲示したり、目印をつけるなどの対応をしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあまらんす2号館

作成日：令和 5年 12月 20日

市町村受理日：令和 5年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートの「暮らしの情報」欄を活用し、趣味や嗜好などの情報を充実させることに期待したい。	アセスメントシートの「暮らしの情報」欄を活用するために、利用者様からの聞き取りや日常生活の様子を確認しながら、趣味、嗜好の情報が充実することを目指します。	ケアプランの更新時にアセスメントをしながら、趣味、嗜好について、利用者様から、聞き取りや普段の生活の様子を確認しながら、情報が充実するように取り組みます。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。